

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより



診療科紹介

麻酔科

麻酔科の取り組み

— 安全で質の高い周術期医療を目指して —

平素より当院の診療及び地域医療連携にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当院麻酔科では、患者さんが安心して手術を受けられ、できるだけ苦痛なく回復できるよう、安全性と快適性の両立を目指した周術期管理に取り組んでおります。今回は、当院麻酔科の特色ある取り組みについてご紹介いたします。



麻酔科部長 永田 健充（前列右から2番目）
第二麻酔科部長 堀下 玲子（前列右から3番目）

神経ブロックを活用した術後疼痛管理

当院麻酔科が特に力を入れている分野の一つが、超音波ガイド下神経ブロックです。

神経ブロックは、局所麻酔薬を神経周囲に投与することで手術部位の痛みを効果的に抑える方法であり、近年では周術期医療において重要な役割を担っています。超音波装置を用いて神経や周辺組織をリアルタイムに確認しながら実施することで、安全性と確実性の向上が期待できます。

当院では整形外科手術を中心に、上肢・下肢の各種神経ブロックを積極的に導入しており、患者さんの状態や手術内容に応じて最適な麻酔方法を選択しています。

神経ブロックには、

- ・ 術後疼痛の軽減
- ・ オピオイド使用量の減少
- ・ 術後悪心・嘔吐の減少
- ・ 早期離床やリハビリテーションの促進
- ・ 患者満足度の向上

といった多くの利点があります。

特に高齢患者さんでは、術後の強い疼痛が活動性低下やせん妄、呼吸器合併症などにつながる場合があります。適切な疼痛管理は術後回復を支える重要な要素であり、当院では手術そのものだけでなく、術後の回復過程まで見据えた麻酔管理を心がけています。

完全静脈麻酔による術後悪心・嘔吐対策

術後の患者さんからよく聞かれる苦痛の一つが、吐き気や嘔吐です。

術後悪心・嘔吐（PONV）は生命予後に直結する合併症ではないものの、患者さんの満足度を大きく低下させる要因であり、術後の飲水・食事開始や離床を妨げることがあります。

当院麻酔科では、この術後悪心・嘔吐をできるだけ減らすため、全身麻酔症例のほぼ全例において完全静脈麻酔（TIVA：Total Intravenous Anesthesia）を採用しています。

吸入麻酔薬を使用しない完全静脈麻酔は、従来から術後悪心・嘔吐の発生率を低下させることが知られており、当院でも積極的に取り入れています。また、神経ブロックを併用することで術中・術後の鎮痛薬使用量を減らし、さらなるPONV低減にも努めています。

患者さんからは、「麻酔からの覚めが楽だった」「以前の手術より吐き気が少なかった」といった声をいただくこともあり、術後の快適性向上につながっていると考えています。

教育活動への取り組み

当院麻酔科では、日常診療だけでなく教育活動にも積極的に参加しています。

私自身、全国各地で開催される神経ブロックのハンズオンセミナーにおいてインストラクターを務めています。超音波画像の描出方法や安全な穿刺技術、合併症予防などについて実技指導を行い、若手麻酔科医や研修医の技術向上に携わっています。

神経ブロックは近年急速に発展している分野であり、新しい知見や技術が次々と報告されています。教育活動を通じて得られた最新の知識や技術を当院の診療へ還元することで、地域の患者さんへより質の高い医療を提供できるよう努めています。



救急医療への協力

当院麻酔科は手術室内だけでなく、地域救急医療の発展にも協力しています。

救急隊員の実習受け入れを行い、気道管理や呼吸管理、患者評価など、救急現場で求められる知識・技術の習得を支援しています。

麻酔科医は日常的に気道確保や循環管理を行っており、その経験を救急隊の皆様と共有することで、地域全体の救急対応能力向上に貢献したいと考えています。

病院前救護から手術室、集中治療まで、切れ目のない医療体制を支えることも麻酔科の重要な役割の一つです。



(前：永田麻酔科部長、後：実習救急隊員)

地域の先生方との連携を大切に

麻酔科は患者さんと接する時間が限られている診療科ではありますが、手術前後の安全を支える重要な役割を担っています。

当院では神経ブロックによる質の高い疼痛管理、完全静脈麻酔による術後悪心・嘔吐対策、多職種と連携した周術期管理を通じて、患者さんが安心して手術を受けられる環境づくりに努めています。

今後も診療技術の向上と教育活動、地域医療への貢献を通じて、より良い周術期医療を提供してまいります。

地域の先生方におかれましては、手術適応に関するご相談や周術期管理についてご不明な点がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。今後とも地域医療連携へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域医療支援病院

第31回 紹介症例検討セミナーのご案内

開催日時：2026年10月26日（月）18:30~19:30

会場：①当院 7階会議室 ②Web参加（Zoom）

申込方法：下記メールアドレスへ参加申込

Mail: ijika-iji@mojih.johas.go.jp

又は 別紙申込用紙のFAX送信

（申込締切：2026年10月26日（月）午前中まで）



演題①：「2型糖尿病における高尿酸血症の改善は腎機能悪化を抑制できるか？ ～ドチヌラドを用いた50症例の解析検討～」

演題②：「2型糖尿病における睡眠の質の改善は血糖コントロールを改善できるか？ ～閉塞型睡眠時無呼吸症候群の2例による検討～」

発表者：新生 忠司（副院長/糖尿病・膠原病内科部長）

♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

入退院支援・患者サポートセンター 体制

（センター長） 大西 英生

（医事課長） 三宅 仁史

（看護師長） 古賀さとみ

（地域医療連携室事務） 香月洋平 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂

（MSW） 桂川陽子 前原知香 大石夏喜

（入退院支援看護師） 野副可奈子 岡本紀美子 江崎昌子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号

TEL: 093-332-7616（連携室直通）

093-331-3461（病院代表）

FAX: 093-331-3466（連携室専用）

PHS: 093-332-1250（連携室担当看護師）

